



むらくも座2007

## 出雲阿國座の観光公演活動の内容

- ①松竹大歌舞伎を始め、能・狂言、文楽などの古典芸能やスーパー神楽、大衆演劇など、集客力のある舞台公演を年間通して開催します。  
また、日本の伝統文化をはじめ、出雲の伝統を学び体験できる市民が参加交流する事業を開催します。
- ②その他の収益事業として、阿国弁当、酒食、出雲そば、ぜんざいなどの軽食の提供販売、オリジナルグッズの販売事業を行います。

- 松竹大歌舞伎公演 ○古典芸能公演(能・狂言、文楽、日本舞踊、落語など) ○スーパー神楽公演
- 大衆演劇公演 ○出雲むらくも座公演 ○夜神楽公演 ○芝居小屋体験ツアー
- 子ども伝統文化教室(神楽や太鼓など) ○施設見学 ○その他貸館事業

## 出雲阿國座がもたらす経済効果

### (1)阿國座の運営に伴う直接経済効果

阿國座の運営や事業に伴う経済効果は、事業に伴うもの、運営管理の直接経費に伴うもの、観客の消費支出に伴うものの3つに分けて考えることができ、年間15億円以上の直接経済効果が期待できます。

### (2)阿國座がもたらす経済波及効果

阿國座がもたらす効果としては、阿国のオリジナルグッズや新たな土産品の開発、販売、地産地消を生かした「食」の開発と提供など、市民の手による新たな活動などにより、さまざまな波及効果が期待できます。

## 出雲市の観光産業による経済効果

出雲市の観光は、平成18年の入り込み客数が約760万人で、県内シェアが29%であるにもかかわらず、市内の観光消費額は、約220億円と推計され、県内シェアの18%にとどまっております。このことは、本市が「通過型」観光であり、入り込み客数に対して観光の消費が伸びていないことを示しています。

一方、出雲市の宿泊者は、近年、増加傾向にあります。入り込み客に対する宿泊率は低く、仮に宿泊率が1%伸びただけでも、約12億円の増加となります。

観光消費額を確実に獲得していくためには、「静」の古代出雲歴史博物館とともに、「動」の阿國座を整備することにより、「通過型」から「滞在型」観光への転換を図ることが重要であり、市内での滞留性を高めることにより宿泊者を増やし、観光産業による消費の拡大を目指していきます。

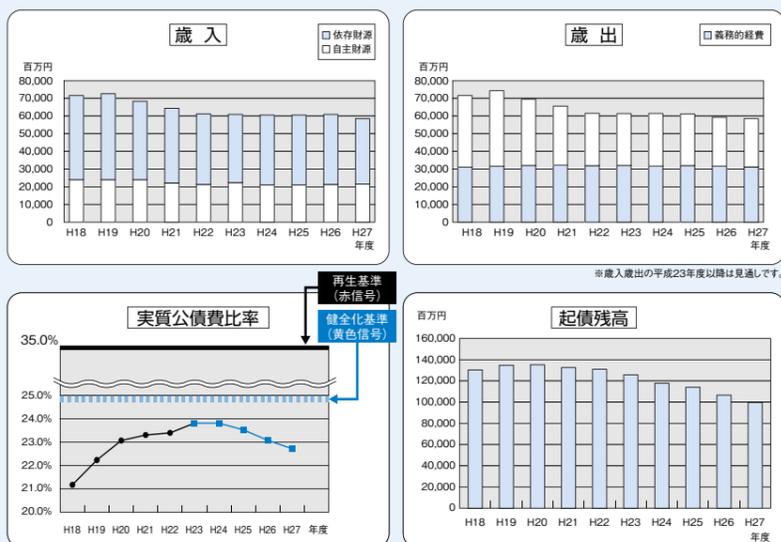
## 出雲市の財政運営方針

### 新庁舎、出雲阿國座、文教施設等の建設を見込み、中長期を展望した安定・安全の財政運営

出雲市では、新庁舎の建設、出雲阿國座の創設など、今後の財政状況を見通しながら、平成19年12月に「中期財政計画」を策定し、将来にわたって安定、安全の財政運営を行っていきます。

国からの交付税などの依存財源の減少が見込まれる中、地方分権社会に対応して、自主・自活するためには、出雲市の経済を発展させ、自らの財源を確保しなければなりません。一方、歳出においても徹底的な行財政改革を進め、経費の縮減に努めます。

また、公債費負担を抑制し、起債の繰上げ償還を盛り込み、実質公債費比率もピークが平成23年～24年で、23%台の後半に計画し、また、起債残高も平成20年度をピークに、以後、漸減にするよう計画し、その後はさらに減らしていく方針です。



出雲阿國座をなぜ創設するのか、財政は大丈夫なのかという声を聞きます。今回は、「出雲阿國座」の創設をめぐる財政、経済問題について、市の考え方を各地区で開催している市民説明会で配布した資料を抜粋してお知らせします。

## 出雲市における観光産業の必要性

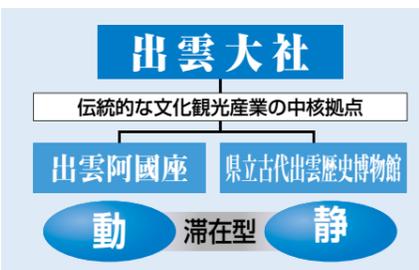
市では、国道9号バイパス工事や斐伊川神戸川治水事業など、大型公共事業に大方の目途が立ち、当面公共事業に頼る時代は終わり、商業、金融サービス、観光産業などの第3次産業への転換がさらなる飛躍の鍵となっています。

特に、第3次産業の中でも観光産業は、旅行業、運輸業、飲食業など極めて裾野が広く、消費、雇用など、地域経済発展の即効性のある大きな原動力であります。出雲市は観光産業の生産力が低いのが現状です。こうした状況の中、合併により出雲大社をはじめ、多くの歴史文化資源を有することになり、即効性のある観光産業を経済発展の大きな柱として推進していくことが可能となりました。

この産業の力によって、市民の所得向上、さらには担税力の強化により、市民の皆さんが求める医療や福祉・教育・文化など、公共サービスの向上を図ります。

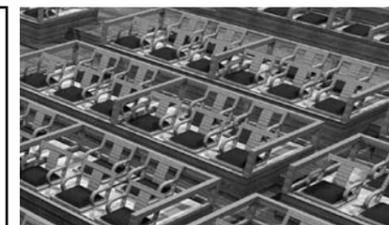
## 観光戦略における出雲阿國座の位置づけ

昨年、出雲大社に隣接して開館した古代出雲歴史博物館は、物を主体とした「静」の施設ですが、阿國座は、歌舞伎はもとより、能・狂言、文楽などの世界無形文化遺産の舞台公演のほか、市民参加による神楽、太鼓などの伝統的な出雲の芸術文化の保存、継承、創造の場として、人間の躍動による「動」の施設として整備します。これにより市内外及び全国からの広域的な集客や観光客の市内での滞留性を高め、いわば「通過型」から「滞在型」観光への転換を図り、観光による消費の拡大を目指します。阿國座では、おもてなしの心を持って、市内外の大観光交流の場として発展を期するものです。



## 施設の概要・概算事業費と財源内訳・事業スケジュール(案)

延床面積	約4,600㎡
主構造	RC造り(木仕上げ)
外観	出雲風の伝統様式を取り入れた荘厳な建物
客席	800席程度(ます型の座席と椅子席の併用)
舞台	江戸時代の劇場様式(廻り舞台、迫り、花道、すっぽんなど)



客席のイメージ

概算総事業費 42億円	
まちづくり交付金	8億6千3百万円
合併特例債	31億7千万円
【交付税による国の財源措置70% (22億1千9百万円)】 【市の負担30% (9億5千1百万円)】	
一般財源	1億6千7百万円

合併特例債償還20年(うち3年据置) 市負担(30%) 11億8千4百万円 (元利償還 年平均約6千万円の予定)  
※なお、阿國座の財源のうち、まちづくり交付金や合併特例債は、新市発展の基盤整備のための国からの支援財源であり、福祉、医療や教育などのソフトの財源には活用はできません。

### 事業スケジュール(案)

平成18年度	基本計画・基本設計着手
平成19年度	基本設計完了 実施設計着手
平成20年度 ～ 平成23年度	実施設計、用地買収、 造成・建築工事 開館予定